

平成20年度 国立赤城青少年交流の家企画事業
「指導に生きる「AAP（あかぎアドベンチャープログラム）」セミナー」

< 実 施 報 告 書 >

国立赤城青少年交流の家

期 日 ・ 場 所 : 平成20年4月25日(金)～平成20年4月27日(日)
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家
〒371-0101 群馬県勢多郡富士見村大字赤城山27

事 業 名 : 指導に生きる「AAP（あかぎアドベンチャープログラム）」セミナー

趣 旨 : 「気づき」を体験的・効果的に学ぶ手法を学ぶ「AAP（あかぎアドベンチャープログラム）」の一環である「PA（プロジェクトアドベンチャー）」を、学校教育、青少年教育、地域活動等の指導者が体験し、指導・支援者としての資質を向上させる。

事 業 の 特 色 : 指導者向けの事業のため、専門的かつ高度な技術を有する講師をプロジェクトアドベンチャージャパンに依頼する。グループワークでの演習、理論を学ぶ講義、既設されているエレメントを使った実体験を通し、教育手法としてのPAの理解とファシリテーターとしての技術の向上を図る。また、情報交換をする場を設定をし、PAをきっかけとした参加者間のネットワークづくりの一助とする。

募 集 人 員 : 教職員・青少年教育施設職員・青少年団体指導者・青少年の研修担当者・企業研修担当者・地域リーダー等で、PAを体験したことのある指導者 20名

参 加 者 : 21名

参 加 者 地 域 : 山形県 : 1名、栃木県 : 1名、群馬県 : 3名、埼玉県 : 5名、千葉県 : 1名、
東京都 : 4名、神奈川県 : 1名、新潟県 : 1名、長野県 : 2名、岐阜県 : 1名、
静岡県 : 1名

企画のポイント : ○学びたい課題が広範であること、経験値がまちまちであることを考えると、講師との入念な情報交換が必要である。

○平日からの実施であったため、仕事との関係で参加を見合わせた方もいた。プログラム内容を充実させるために2泊3日を計画したが、連休に当てられる条件づくりも考える余地がある。

○夜のプログラムも実施した。遠路からの参加者もあり、気力の充実が保たれるとともに十分な休息がとれる時間確保も考慮したい。

広報のポイント : 「教育関係者」を対象とした。広報先として、関東地方の社会教育施設・大学、埼玉・茨城・栃木・群馬県の高等学校、近郊の市町村教育委員会管轄下の小中学校へメール便で開催要項・チラシ等を送付した。新年度が始まって間もない時期での紹介となり、年度初めの多忙などもあり、参加を躊躇する方もいた。参加者の予定を組みやすいように配慮し、早い段階での広報が必要である。

紙面資料での送付が主であるが、ラジオや新聞等での広報を充実させることで、さらに多くの方々への周知が可能となる。

プログラム展開 : < 4月25日(金) 1日目 >

17:45 受付
19:00 開講式・PA実習
21:30 オリエンテーション
21:40 入室・入浴
22:30 就寝準備

< 4月27日(日) 3日目 >

6:30 起床
7:10 朝のつどい・朝食
9:00 PA実習
12:30 昼食
13:30 PA実習
15:30 閉講式
16:00 解散

< 4月26日 2日目 >

6:30 起床
7:10 朝のつどい・朝食
9:00 PA実習
12:30 昼食
13:30 PA実習
18:00 夕食
19:00 PA実習
20:30 交流会・入浴
22:30 就寝準備

成 果 : 今回の対象はプロジェクトアドベンチャーを体験したことのある方に限った。参加理由に、ファシリテーターの役割等を学びたいという希望が多かった。こうした状況を事前に講師と打合せをし、プログラム内容を検討し実施した結果、体験内容に満足を感じ受講を終えてた参加者が多かった。学校教員の多くは、教育現場で早速実践して見たいという声も聞かれ、体験学習のますますの広がりを期待できる。

また、同様な悩みや課題を抱えている方々が、話し合ったり助言したりという場面設定も設けることができ、教師間のネットワークづくりの一助とすることができた。

今後の課題 : ○広報期間については、参加者が余裕を持って考えることができるよう、早めの公開が必要となる。
○メール便での広報は、届いた先で限られた方のしか目にするということがないといったことも予想できる。
Webやラジオ、新聞等での広報等をさらに増やしていきたい。
○今回の企画事業事態が体験学習であるため、泊を伴っての3日間という時間は必要ではないかと思う。しかし、参加者の体調等を考慮すると、中身の時間設定等において無理のないプログラムを組むことは大切であろう。
○三段階設定の中級編であった。広報においては「体験済みの方」を参加資格としていたが、その体験度に関がかった。



「大脱走」信頼と絆い
う力で壁を越えます。



みんなで乗り越え、充
実感！